

こくど会懇親会報告

2018 年度懇親会は6月16日（土）12時より、アイビーホール青学会館2Fミルトスで開催されました。

前半は柴田幹事の司会で始まり、この一年間に亡くなった内藤実、木村久人、山崎宣三、伊藤喬、大橋良、荒谷啓吾、鈴木義隆、辻岡聡宏、横田稔、長島俊一（敬称略）の10名の方のお名前と、名古屋OB会で近年判明した奥澤實、高松欣一、奥村厚一、下垣朝次、小川修三、水本亘、池田功、彦坂幸男、奈良富雄、笠羽廸夫、黒川真生、大西登、堀口由美雄、村上隆、荒井晴夫、渋谷勝弘、西本長次、北森幸一（敬称略）の18名の方のお名前が読み上げられ黙祷をささげました。

続いて大竹会長、朝倉社長のご挨拶に続きこれも恒例の最年長者（今年は北村信雄さん82歳）の音頭で乾杯が行われ懇親会が始まりました。

後半は松倉幹事の司会ですすめられ、恒例となっている催しは、「石黒サンペイのお笑いライブ」が行われ、笑いを集めて盛り上がりました。今回初参加のOG、伊藤（新井）テル子、北村（金子）洋子、高井節子、田中（林）八州子、西岡（吉田）時子、深沢（鹿島）富士子、中堀明美（敬称略、^{（）}内は旧姓）の7名が自己紹介を行いました。その後、今回初参加で新たに幹事となる石上明、永井直人（敬称略）の近況報告と挨拶があり、続いて同じく新幹事の坂口干城さんから挨拶がありました。また、今回で長年して頂いた幹事を退任される柴田幹事より挨拶があり、同じく退任される芋坂幹事より退任の挨拶と手締めで終了。最後に恒例の集合写真を撮影した後、解散となりました。

大竹康夫会長挨拶

本日は大勢の方にご出席頂きありがとうございます。本社からは朝倉社長以下8名ご出席頂いております。それと今日は女性陣が7名もご出席頂き、誠にありがとうございます。

今、テレビでは、米朝首脳会議が朝から夕方迄どのチャンネルでも放映しています。私もずっと見ていますが、今まであれだけ罵倒した相手に対して、大変信用できる人間ということを出しています。このような人間が果たして交渉できるのかと危惧しています。全然謝罪の言葉もなしに、急に変わるような人間を私は信用できません。非核化それとミサイルの開発中止、それから人権問題、日本にとっては拉致問題がありますが、これを何とか時間をかけてでもクリアしないといけないと私は思っています。あとは、米朝首脳健康状態が気になります。金正恩氏があれだけ太っていると、いつコロッと行くかもわからない。コロッと行った場合はクーデターも有り得るのではないかという気もします。元気な状態のときに交渉の筋道が上手く行くように望んでいます。もう一つ私が懸念していることは、私は安倍首相3選には反対でしたが、これが3選のいい口実になっている、助けになっているような気がします。名分を引っ提げて3選をすることが既成事実のように見られている。大義名分で、拉致問題解決ということで大手をふって3選がされるのではないかという気が

しています。今日の新聞でもそうでしたが、所謂、力を頼りにやっているのが現状ではないか、それが見え見えのような気がします。

私ら中学の同期の集まりで数年前に東京オリンピックが決まった時に、皆東京オリンピック2020年、リニア新幹線2027年、これを目的に頑張ろうというのが合言葉でしたが、2020年はもう直ぐ来ますし、2027年のリニア新幹線開通、これまでは何とか頑張れるかな、後9年です。日朝関係はいい方向に向かうことは確実だとおもいます。あとは中国の問題がありますし、日本の軍事をどれだけ削減できるかが問題だと思っています。あと10年足らずですが、もうひとふんばり見届けたい、われわれが納得できる状態を見届けられればなという気が致しております。10年足らずですが、もうひと踏ん張り頑張りたいと思います。今日はどうも有難うございました。

朝倉社長挨拶

只今ご紹介に頂きました朝倉でございます。昭和52年入社 of 土木系です、かなりの先輩の方もいらっしゃいますので、改めましてよろしく申し上げます。

わが社は会社更生法を申請してから今年が丁度20年になります。この20年を境に二度と潰れないようにしようというのを主眼に一生懸命やっております。10年前に非常に厳しい状況がありましたが、その後の震災復興を中心に業績は好調に右肩上がりとなっています。更生後は5月決算となっていますので、この5月で89期が締めましたが、この間の5期位は連続で右肩上がりとなっています。この前期の数字は、今年で創業67年になりますが、創業以来の営業利益になると思います。昔は売上高が3000~4000億という数字があった中での営業利益でしたが、今は売上高1000億で同様の営業利益ですので利益率は非常に良くなっています。世間に十分に自慢できる位のレベルの数字ではありません。

ただ、この数字は続かないということを社員に伝えております。5年後、10年後をどうするかということを課題の中心にしています。今、ここで緩めてしまうと、土木建築の市場はマーケットに左右されますので、オリンピック後に縮んでいくのではないかと、その時に更生法を申請した20年前を忘れないでやっていきたい。生き残っていくために、会社の中身を大きな改革をして、3事業本部という形にしています。土木、建築と開発という3本立てでそれぞれが責任を持って収益をあげていくという姿勢です。今のところ、それぞれプラス方向で営業利益を出している。そういった点が以前と違ってきています。

トピックスとしましては、建築が、かなり収益を上げるようになっていきます。大きなニュースでは、大阪で超高層の建築を準大手クラスに優る位のレベルでやっています。3月に竣工引渡した案件は100億を超えていました。今年も関西電力様直系の関電不動産様、住友商事様、パナソニックホームズ様の共同事業体から単独で58億の超高層建築を施工しています。少し前であれば考えられない状況になっていて、大阪（西日本）だけで超高層案件を4本やっています。土木に比べると建築がどんどん急に伸びてきている。この原因は、工

藤社長のときに東海興業さんの社員がわが社に入って頂き、やはり建築の東海興業さんが非常に頑張っておられます。残念ながら、東京地区はほとんどそういう方がわが社に来てくれなかったということがあり、建築の中では東京が一番稼いでいたが、今は東京の建築が遅れている。大阪についてはあのエリアで超高層をあれだけやっている建築の会社は竹中さん、大林さんなどほとんど大手さんである。わが社が4本もやっているというのは自分にとっても非常に驚きである。良くここまでなったものだなと思う。このまま東京も大阪並みの建築になれば恐らく大きな成長をして建築の中でゼネコンとしての地位を確立できるのかなと思います。数値を気にされる方もいらっしゃいますが、1000億は受注も完工高も超えています。連結でも創業以来の初めての経常利益となります。皆様方にこういうニュースを続けられるように頑張らないといけない。来年はかなりピークアウトし、かなり震災復興に頼っている利益が落ちてきますが、それでも50億から100億に近いレベルを維持できるのではないかと。体質の改善や組織改革をやっていますが、この数年で、あと10年20年生きれるかどうかきまるのかなという覚悟でやっています。

こういう会がずっと継続できるように我々も頑張らないといけない。他の傾いたゼネコンには色々な資本が入ってきて、熊谷さんは住友林業さん、鴻池さんはセキスイさん、佐藤工業さんは川田工業さんと提携しています。当社は単体で資本は一切入っておりません。これを続けるためにここで体力強化をしなければいけない。

あと、トピックスとしては発電事業として80メガ（8万キロ）ワット相当の発電所のうち、30メガ（3万キロ）ワットは売電で収入を得ており、あと50メガを宮城県松島で許可がおりています。

ということで、今元気になっておりますけどもこれから将来に亘って、さらにこれが続けられるように頑張りますので、是非皆さんの応援をお願い申し上げて、私の挨拶とさせていただきます。

懇親会スナップ写真







スピーチを行った皆さん



スナップと「石黒サンパイお笑いライブ」



集合写真

以上